

第3回 学校運営協議会 議事録

校名	府立 岬高等 学校
校長名	中村 公一

開催日時	令和6年2月2日(金)
開催場所	大阪府立岬高等学校 会議室
出席者(委員)	保井太郎 会長 、 島崎英夫 副会長
	田中繁樹 委員 、 齋藤 緑 委員
出席者(学校)	中村公一 校長 、 小幡和子 事務長 、 中原浩育 教頭 、 栩原正明 教頭
	首席、教務主任、進路指導主事、生徒指導主事、教育相談委員長
	パスファインダー長、学年主任3名、教諭2名
備考	

議題等(次第順)

1. 【はじめに】
 - ① 学校長挨拶
2. 【連絡及び報告】
 - ① 令和5年度進路状況について
 - ② 令和5年度授業アンケート結果について
 - ③ 学校教育自己診断の結果について
 - ④ 山海人プロジェクトについて
 - ⑤ 令和5年度学校経営計画及び学校評価について
 - ⑥ 令和6年頭髪指導について
 - ⑦ 令和6年度制服について
3. 【協議事項】
 - ① 令和6年度学校経営計画(案)について

協議内容・承認事項等(意見の概要)

1. 【はじめに】
 - ① 学校長挨拶
2. 【連絡及び報告】
 - ① 令和5年度進路状況について
 - 《全体状況》
就職希望57% 進学希望36%、福祉就労・職業訓練校4%、その他・未定3%
 - 《就職》
1次応募での内定率75.9%で過去3年と比べると10%近く高い内定率であった。
 - 《進学》
四大7名、短大1名、専門学校20名、進学予定4名(進学浪人2名含む)
 - 《福祉就労》
就労継続支援等の福祉就労者が数名あり、今後も多様な進路の開拓に努めていきたい。
 - ② 令和5年度授業アンケート結果について

令和2年度の結果がピークでそこから下がっていたが、全質問で令和2年度の結果に近づいた。
結果が良くなったのは、地域連携として外へ出ていく授業や外部の人を呼ぶ授業が多くなり生徒にとってやりがいのある授業になってきたからだと考えられる。
 - ③ 学校教育自己診断の結果について
 - 《生徒用》
質問25(一人一台端末の積極的活用)について、学年別では1・2年で肯定的意見が非常に高い数値となった。
新しいカリキュラムなので、一人一台端末を利用した授業づくりが進んでいる結果と考えられる。
 - 《保護者用》
質問1(学校へ行くのが楽しい)について、保護者の方が肯定的意見が高い数値となり、例年と比べると逆転現象が起こっていた。
質問12(進路への情報提供)の肯定的意見が下がっている。
保護者への情報提供が十分に行われるような方策を考える必要がある。
 - 《教職員用》
質問1(教員間の情報共有)について、肯定的回答が100%となった。
2人担任制に伴って教職員の日常的な連携がなされたためと考えられる。

④山海人プロジェクトについて

1年:通学路の清掃及び花壇の整備・花の植え付け

2年:泉南里海公園の清掃

3年:長松海岸及びみさき公園遊歩道の清掃

例年と違い、岬町役場産業観光促進課や岸和田土木事務所といった地域の方と一緒に連携して活動できた。参加率がよくなっており、アンケートも肯定的回答の数値が上がっている。

⑤令和5年度学校経営計画及び学校評価について

《自己評価》

ほぼすべての項目の目標を達成することができた。

また、目標を上回った項目は以下の通りである。

授業アンケートでの授業展開の項目:新カリキュラムによる新たな授業づくりによるものと考えられる。

各系列での新しい取り組みの項目:地域連携を活用した新たな取り組みが各系列で行われた。

学校教育自己診断における生徒指導項目:生徒に寄り添った粘り強い生徒指導によるものと考えられる。

国際感覚の項目:(株)共新との連携で技能実習生と交流を行った。

支援教育体制の項目:体験型の多様な学びを多く実施した。

地域連携の項目:地域連携による取り組みを20回以上実施した。

地域行事の項目:生徒会や部活動が8団体の行事に参加した。

⑥令和6年頭髪指導について

現状:対象者には指定した日に直すように説諭していた。

今後:多様な生徒の入学が考えられるため、ルールでしぼらずに学校全体で生徒が自らTPOを考えられる価値観を育みたい。

3年の進路選択時には企業または学校が求める形に合わせた頭髪・身なりができるように指導してゆく。

⑦令和6年度制服について

学校への愛着の面で制服自体は残す。

必ず購入するもの(ブレザー・スラックスorスカート・リボンorネクタイ・長袖カッターシャツ)は変わらない。

指定する制服は高価なため経済的な理由をふまえて、ルールに基づいて市販品を利用できるようにした。

3.【協議事項】

①令和6年度学校経営計画(案)について

《めざす学校像》

令和5年度のめざす学校像を継続する。

《中期的目標》

エンパワメントスクールからステップスクールとなるため、エンパワメントスクールの文言をステップスクールに変換。

新規項目として地域連携を活用した体験的な取り組みの開発を入れる。

ワールドトラベラー系列からクロスカルチャー系列となるため、ワールドトラベラーの文言をクロスカルチャーに変換。

→承認

質疑応答

Q:二人担任制になってどのような効果が出ているか?

A:分担をそれぞれの得意・不得意で割り振ってうまくやれている。うまくやれていない部分もあつたりもするが、実態としては良かった。

担任の数が増えることで学年職員室の人数が増えた。

そのため、職員室にやってくる生徒の対応を余裕をもってできるようになった。

課題を身近に共有できる仲間がいるので楽しそうに仕事をしている。

Q:食堂はどうなるか?

A:現在の業者が撤退するため、新たな業者を公募している。

Q:食堂がなくなると困る子が必ず出てくる。ローソン使えるようにできないか?

A:食堂の新たな業者が入らない場合は対応策について考える。

ご意見

●これからも、もっとコミュニケーション能力を育めるような支援をしてほしい。

●諸外国に比べて日本はそれぞれの個性を観た教育ができていない。岬高校で来ている生徒が学校に残るような楽しい学校にしてほしい。

●生徒の下校の様子を見ていると、年々良くなっていると感じられる。

●食堂をはじめ、入学したらなくなっているということがないようにしてほしい。

次回の会議日程

日時	令和4年5月20日(金)15:00~
会場	大阪府立岬高等学校 会議室